



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1939, 19(216): 185-190

ISSUE DATE:

1939-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167792>

RIGHT:

# 観測部月報

★

東亞天文協會

## ★流星課だより (90)

小 槇 孝 二 郎

今や全く寒氣をはなれて正に春たけなはである。地上は百花其美を競ひ、百鳥其の聲を争ふ時となつた。夜の流星観測も漸く樂になつて來たと云へる。しかし日増に夜は短くなり、この點観測者にとって不都合とも考へられる。加ふるに霞や霧も多くなつて來て、秋や冬空の様な清澄な空は得られなくなつて來る。

四月中に最も苦しい流星群としては琴座群 Lyrids であるが、近年その出現はむしろ少い様である。20日から23日頃を最多とするが、15日乃至25日は出現期間である。速いのが特徴である。輻射點は琴座κ星の附近であるが期間中東方へ移動する。

月初から中旬にかけて乙女座の火球が屢々見られる。其他中下旬には北冠座から、月末には龍座及水瓶座から放射する流星が豫想される。

× × × × ×

昨年の流星報告が大體出揃つたので月別の集計を下に示す。

月	観測者数	回 数	時間数(分)	流星数
一 月	4	10	783	130
二 月	1	3	205	23
三 月	2	2	120	6
四 月	2	7	610	52
五 月	2	2	190	19
七 月	6	12	746	140
八 月	7	17	955	168
九 月	2	4	300	50
十 月	6	21	2559	674
十一月	4	21	2535	566
十二月	3	4	180	35
合 計	10	103	9182	1873

以上の結果を一昨年度の集計と比較するに、觀測時間數に於て3割7分、流星數に於て2割6分の減少となつてゐる。この點は實に遺憾であるが今年は是非挽回したいものである。大方の御奮起御後援を願ひたい。(II 26, 1939)

## ★太 陽 課 (1939年2月)

報告者 13名(前月と同じ)

天候 例年2月は、表日本では一月よりも雲足が繁く、さりとて裏日本の風雪も治まらず、概して天候の佳良な月では無い。本月も其の例に洩れず全員で補つても、20日、25日の兩日に缺測を見たのは遺憾であつた。猶ほ本邊に依る觀測可能は23日間であつた。(缺を除いたもの)

概況 個人的に出入りはあるが、殆んど前月と差はない様であつた。全月中では下旬に幾分活況を示した様である。

肉眼的黒點	坂上	津留	正村	合計
觀 測 日	16	19	13	48
出 現 日 數	6	13	7	26
黒 點 群 數	1	4	3	4
黒點群累計數	6	13	7	26

平均した觀測日と出現日數の比は **0.54** であつて、前月よりも稍減少したやうである。この値は依然活動期に匹敵するが、望遠鏡的にさして活潑ではなかつた事から見れば、觀測者の熟練と云ふ事も少し影響して居るだらう。猶、津留に依れば肉眼的黒點は全部南半球であつた。

南北兩半球の比較	津留	織田	木邊	山田	島崎	沓掛	阿部
南	55.7	46.1	48.8	33.3	40.6	50.3	48.4
北	35.2	46.3	42.6	41.1	31.6	48	35.8

7名の平均に依る南北の比は、南 **1.00** に對する北 **0.87** であつて、前月よりは著しく南北平均して來た。3月は逆になるのかも知れない。

各個の黒點群の緯度は、赤道附近のものは無かつた様であるが、高い方では多分21日頃に東端より出現した單獨黒點類型(小黑點が附隨したが)のものが北  $29^\circ$  であつた(沓掛、津留兩氏一致)。他に北  $26^\circ$  位のが中旬に出て居る。(小群)

其他 黒點群緯度報告は例月通り沓掛氏と津留氏(一部)、スケッチは津留氏

## 太陽課 黒點相對數報告 (1939年2月)

觀測者 (觀測地)	坂上 務(鹿兒島市山下町)	津留 繁雄(熊本市本莊町)	野村 秋馬(和歌山市南田邊)	織田 太郎(大阪府明星商業)	木邊 成磨(滋賀縣中里村)	正村 一忠(岐阜市溝旗町)	山田 達雄(愛知縣犬山町)	島崎 光治(石川縣大塚寺町)	大石 辰次(靜岡縣吉永村)	香掛 七三(長野縣青木村)	すばる會 横濱市	御供 印孝(東京市立一中)	阿部 正明(東京市池袋)	千葉 武志(岩手縣水澤町)
口徑 mm	102	130	60	76	75	25	35 69	75	55	102	50	50	32	50
倍率	67	45	52	75	60	48	44 87	64	64	75	50	32	45	50
1	曇	100		99	75	曇	81	雨	82	曇		曇	76	60
2	〃	曇		曇	曇	〃	缺	雪	107	曇		曇	87	缺
3	〃	〃	缺	〃	雨	〃	〃	雪	71	曇		曇	曇	曇
4	〃	76		〃	〃	〃	〃	〃	55	〃		曇	55	71
5	103	雨		〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	68	曇	〃	〃
6	87	曇		56	缺	〃	51	〃	59	〃	72	36	曇	〃
7	92	曇	測	88	97	曇	65	〃	77	〃	93	缺	81	68
8	76	曇		旅	58	51	61	曇	52	80	69	32	67	43
9	63	〃	(病)	55	77	〃	69	曇	28	29	36	11	50	曇
10	51	〃		曇	缺	22	28	曇	28	29	72	缺	63	曇
11	雨	〃		61	〃	曇	66	缺	53	71		〃	缺	64
12	94	曇		曇	〃	74	74	86	75	95		曇	90	75
13	〃	83		〃	96	75	92	87	86	108		曇	曇	〃
14	〃	曇		〃	缺	曇	81	曇	曇	97		缺	曇	〃
15	74	〃		〃	74	59	73	曇	曇	69		〃	〃	66
16	86	68		105	73	48	66	〃	50	65		〃	75	69
17	97	58		97	67	曇	60	曇	曇	96		缺	曇	〃
18	86	曇		82	96	〃	曇	〃	曇	88		曇	67	曇
19	93	曇	67	72	〃	〃	缺	曇	63	曇		曇	曇	曇
20	雨	雨	缺	曇	曇	〃	雨	曇	曇	曇		曇	曇	曇
21	曇	〃		110	102	曇	曇	雨	〃	〃		曇	曇	曇
22	91	103		123	119	84	97	曇	122	115		曇	114	111
23	曇	曇		曇	120	曇	曇	曇	129	119		曇	102	111
24	曇	曇		曇	128	74	曇	曇	114	152		曇	108	104
25	85	121	75	雨	曇	雨	雨	曇	曇	曇		曇	曇	曇
26	117	110	90	曇	98	90	缺	94	88	117	101	〃	117	缺
27	雨	曇	60	曇	95	曇	缺	97	曇	77	119	60	118	99
28	125	130	缺	104	125	曇	110	95	曇	154		缺	118	134
觀測 日數	16	10	5	1	18	10	16	11	16	19	10	9	18	13
一日 平均	89	91	—	92	91	68	74	72	75	98	78	52	84	83
前月 平均	115	86	—	106	102	62	—	—	78	96	103	67	90	80

註. 阿部氏 4, 6, 18日の三日は觀測中途にて曇る。

(肉眼的の二群)である。

追加 函館の田村正三氏一月分報告受理。従つて一月の報告者は14名。

課告 報告先は 京都市上京區東三本木丸太町上ル信樂方 木邊へ。

## ★發光星課 (1938年2月)

1938年1月の報告者と目測數

氏名	沓掛七三	西川英男	小澤喜一	坂上務	三宅和夫	島崎光治	清水直次	太田彬	木邊成磨	合計9名
觀測星數	7	1	22	1	2	4	5	5	32	46
目測數	15	2	339	3	6	9	18	17	252	661

### 内譯第二部

沓掛	小澤	木邊	合計
7	22	25	30
15	339	234	588

沓掛氏の再参加を示す

### 第一部 (以下光度は數字だけで示す)

長周期星類 増光中 U Ori 増光? 7.8~7.1 (太田 4), 7.8~7.4 (清水 4), 7.6 (木邊 1),  $\gamma$  Gem (島崎 1, 三宅 2), 此の星は min を見る事。Max は平たくて捉へ難し。(215號, 故小山氏記事参照)

減光中 R And 7.6~8.2 (島崎 3),  $\alpha$  Cet 7.6~8.2 (清水 3), S CMi 8.5~9.6 (坂上 3, 島崎 2), R Leo 6.6~7.2 (太田 5), R Tri 9.3~10.0 (清水 5)。

其他 X Mon 極小附近 9.0 $\pm$  (清水 3), T Cet 變化少 (清水 3) 觀測困難な星, R. Gem, R Hya (太田 1),  $\gamma$  Cas ヤヤ暗し 2.6 $\pm$  (木邊 3),  $\alpha$  Ori 暗し 1.0~1.1 (西川 2, 三宅 4, 島崎 3, 太田 6, 木邊 3), R CrB 13.3 變化少? (木邊 2), 其他省略。

### 第二部

2 Max CN Ori, TZ Per, SU UMa,

1 Max RX And 17日短, SS Cyg, AW Gen 30日昇!!長, X Leo, Bl Ori,  
(以上小澤, 沓掛一部, 木邊)

RR Tau 中旬稍明 (小澤), 其他 Max 無し, 又は省略。

4, 5, 6 月極大豫想せらるる長期星中好位置に来るもの

V CVn	6.4~8.9	周期 193日	極大 4月初め
R CVn	7.0~12.2	325	4月の終り
V Hya	6.7~12.0	530	〃
RU Her	7.0~14.2	495	5月中旬
T Cen	5.6~9.0	91	5月末?
TX Dra	6.8~8.1	77	〃 ?
R Boo	5.9~12.8	225	6月初め
V Boo	6.4~11.4	259	〃
R Oph	6.0~13.9	302	6月終り
Z UMa	6.8~8.7	198	〃

右の中、周期の短かく、且つ光度差が少ないものは、豫報は不正確であるかも知れぬ上、且つ變光も緩やかであるから熟練を要する。V Hya, RU Her の如き周期の長いものは、捉へる機会が尠ない點で一寸面白い。本號を見てからでは、4月のものは一寸遅いかも知れない。5、6月に極大の來るものがよからう。(木邊)

## ★遊星面課

### 火星大接近協同觀測要項

1. 觀測期間——1939年5月1日より10月31日迄。(但、この期間外の觀測も喜んで受理す)
2. 協同觀測者資格——東亞天文協會員にして、望遠鏡を有し、天體觀測に經驗を有する者たる事。
3. 協同觀測者特典——協同觀測希望者は、遊星面課長宛、觀測地、姓名、使用器械種別、口径、倍率等を通知さるれば、期間中、火星面上の突發事件等の速報、課報、見取圖用紙の無料配布(豫め必要枚數申込の事)、其他種々觀測上の便宜を得る特典有り。
4. 觀測用紙——本會遊星面課制定製作の往復ハガキ型見取圖用紙を、協同觀測者のみに無料配布す。用紙は報告のみに使用し、手許へ殘されるのにはコツビイを取らるべき事(用紙節約の爲)。猶ほ、用紙殘餘すれば必ず返送さるべき事。

5. 観測上の注意——天界5月号より「観測手引」に連載の火星観測上の注意に従つて、“量より質”を旨とし、良心的な正確な記録を爲す様努力する事。シーイングのスケールは、本年度より本號所載の「ビケリングの標準スケール法」を採用する事。観測記録見取圖は、期間中毎月末に纏めて課長宛送付報告の事。
6. 突發事項の速報——火星面上に、雲、霧等の出現、模様消失、變色等、其他特別に注意すべき現象を認めた観測者は、可及的速かなる方法（電話、電報、速達、航空便等）によつて課長宛通知の事。課長は直ちに全観測者に速報し、協同観測の遂行上遺憾なき様善處す。（以上）

遊星面課課長 伊達英太郎

兵庫縣川邊郡川西局區内雲雀丘 ヒバツガクラ

電話（池田）2546 番

## ★彗星課だより

**コジク・ベルテヤ彗星** 去る二月中、辛うじて肉眼に見える程度にまで明るくなつた此の新彗星 1939a は、もはや南方へ行つて了つた。臺灣や海南島あたりでならば、今尙ほ観える筈である、日本の領土も、今や世界的になつてゐるのであるから、南の方にも天文臺の二つ三つがほしい。ドイツ國 Kahrsteat 博士が一月20日、同 29日、二月6日の観測位置から算出した此の星の楕圓軌道は下の通り：

近日點通過	$T = 1937\text{年}2\text{月}6.770 \text{ (U. T.)}$	元期	$E = 1939\text{年}3\text{月}7.0 \text{ (U. T.)}$
〃 引數	$\omega = 169^\circ 02' 03.79''$	離心率角	$\psi = 86^\circ 35' 40.70''$
昇交點	$\Omega = 288\ 43\ 25.6$	平均運動	$\mu = 0.435$
傾斜角	$i = 63\ 31\ 56.7$	半長徑	$a = 405.651 \text{ 單位}$

之れで見ると、公轉周期2,980,000年、即ち三百万年弱となる。だから、まあ大體拋物線と考へれば好い。